

「法廷外の意見陳述」

廃炉の会は2011年11月11日第一次原告612名で札幌地方裁判所に提訴しました。翌2012年第二次原告募集で622名が加わり1,234名の原告団になりました。「法廷外の意見陳述」は原告でない方にも「意見陳述」していただく場です。

放射能汚染が及ぼす道民への影響

～関東から避難してきた者からの報告と提言～

中村由紀男（泊原発廃炉の会「そらち」会長）



一家で北海道へ避難

私たちは家族総勢9人、関東地方から北海道へ、放射能避難でやってきました。こんなことを言うと、福島でも東北でもないのに、多くの人が「？だ」と思います。

息子は、3・11直後に東京にも降り注いだ汚染雨を重度知的障害児の子ども（私の孫）に浴びせたことを後悔し、避難所などではとても生活できないと、すぐ北海道へ。その障害児のケアのため何回も埼玉と北海道を往復した私は、北海道が好きになってしまったこともあり、北海道を終の住処に選びました。娘は夫の実家がある栃木に住んでいましたが、ホットスポットが近くにあって家庭菜園の土もセシウム濃度が高いことがわかり、2年がかりで機械エンジニアの夫君を説得してやってきたのです。

福島原発事故による放射性物質のプルームは静岡や長野に至るまで降り注ぎ、関東地方にもあちこちにホットスポットがあります。事故直後、私の妻は東京都下のとある小学校に勤務していたのですが、敷地内の一部を密かに当局が「除染」している光景を見ました。ここはホットスポットでも

ないので、公表されている空間線量だけでなく、線量の高い地域は今やさほど多くないように見えますが、東京でも、下町や山間部の土壌はかなり汚染されています。政府が土壌汚染度を調査しないから、市民がつくる全国の放射能測定所が協力して3,400地点の土を測定したデータで判明しました。東京の放射能汚染は、チェルノブイリなら「避難の権利」が保障されるべきレベルなのです。

ストロンチウム汚染の実態

福島原発事故は今も収束しておらず、廃炉の見通しさえ立っていません。原発と原発は科学的に同じ原理で、むしろ原発の方が桁違いの放射能汚染を来します。原発1基で広島型原発の1,000倍以上の放射能を毎年生み出しているのです。使用済み核燃料を安全に貯蔵・処分する方法はありません。

各地の放射能汚染は、前述したものはほとんどセシウムによる汚染ですが、それ以外にも放出された核種がかなりあります。セシウムと同量程度放出されたはずのストロンチウムはほとんど明らかになっていません。これも、現政府が測定しないからです。皮肉なことにも他国の政府や専門家が測ったデータはあり、日本政府も福島事故以前には測っていたのです。ストロンチウムはなかなか測定が困難な核種ですが、抜けた乳歯を集めて測定すると、汚染の実態がよくわかるのです。そのデータによると、大気圏核実験が多く行われた時期の約2年後に乳歯中のストロンチウム濃度が明らかに上昇しています。福島事故後の実態を把握

するために、乳歯中のストロンチウム濃度を測定する会社をやはり市民と専門家が立ち上げ、測定を開始しています。

トリチウム汚染水の放出

今まさに福島原発で問題になっているトリチウム放出問題。トリチウムはエネルギーが低いのでその放射能は問題ないという「原子力ムラ」方面からの吹聴があります。が、とても間違いです。水素原子の同位体ですから、容易に水の中に紛れ込み、水分の多い人間の体の隅々にも入って、近隣の細胞のDNAを破壊したり物質の化学構造式まで改変してしまいます。

実際、アメリカの原発稼働地域と乳癌罹患率の分布には見事なくらい相関関係が見られます。（注）泊原発周辺の町村では、癌による死亡率が北海道の1位〜3位を占めています（稼働時）。この点でも、泊原発の再稼働はすべきでないのです。

食品からの内部被曝

原発は、事故に限らず、上記のように通常運転時、燃料の再処理・貯蔵時に放出される放射性物質による内部被曝（体内被曝）も恐ろしいのです。放射性物質は、呼吸と飲食そして皮膚を通じて体内に入ります。外部被曝は放射性物質から離れることによって被曝回数や強さを軽減することができ、内部被曝は放射性物質が体内に留まる限り一生被曝が続きます。

内部被曝により、細胞にある染色体が破壊されたり改変されます。食物連鎖によつて、より大きな問題となります。ここまで飲食・吸入しても安全という閾値はありません。

「原子力ムラ」では、この内部被曝を無視、または過小評価してごまかしているのです。彼らは「食物の中にも天然の放射性物質がある」とも言いますが、カリウム40な

どは、長い進化の過程で人間の体が対応してきたのです。自然核種と人工核種を同列に扱ってはいけません。

北海道民に及ぼす放射能汚染は、泊原発が大きな問題を起こさない場合でも、この内部被曝が最大の問題となっています。

純粋な北海道産の農作物ならほとんど問題ありませんが、冬場などは本州からたくさん農産物が入ってきますし、海のものも太平洋側で獲れた産物などに注意が必要です。山のものやジビエと呼ばれる野生鳥獣類から高いレベルの放射能が検出されることが多いです。

100ベクレル以上のものを流通させてはいけないようになってはいますが、測定頻度があまりにも少ないし、そもそもその基準は事故前では問題だったレベルなのです。厚労省が発表しているデータだけでも、東北や関東などでは依然として放射能が検出されています。

福島原発事故後、流産・乳児死亡率、周産期死亡率が増加しているデータが医療の専門家たちによって明らかにされました。チェルノブイリ原発事故後の健康被害のデータからも明らかのように、内部被曝の影響が顕在化してくるのは、むしろこれからです。

泊原発を再稼働させてはいけません

そもそも、こんなに地震の多い日本に原発をつくるのが大間違いだったわけですが、泊原発にも活断層があることがもはや明らかであり、前述したような様々な問題もあるわけですから、再稼働は絶対にすべきではありません。倫理上も許されないと、経済的にも破綻しています。

私の場合はさらに、北海道に移住した意味がなくなるようなことをやめてもらいたいです。